

6. 営業活動

(1) 総ざらい活動の進捗状況

- 1) 平成 27 年度の和歌山県、平成 28 年度の滋賀県、奈良県に続き、平成 29 年度は 6 月から京都府、大阪府及び兵庫県で総ざらい活動を行いました。京都府は 6 月～7 月、大阪府は 7 月～8 月に、兵庫県は平成 30 年 1 月～3 月に処理説明会を開催しました。既に一回目の総ざらいを完了した和歌山県・滋賀県・奈良県、京都府及び大阪府については、地域専任担当者を設け、保管者毎に登録及び契約締結の個別交渉を進めています。兵庫県についても、総ざらい活動が終了し、同様の地域専任体制に移行しました。
- 2) 兵庫県の少量未処理保管者 427 者に対しての一回目の総ざらい活動の結果は以下のとおりです。

[処理意向の状況]

① 平成 30 年度処理意向	264 者 (62%が処理予定)
② 処理意向だが、次年度以降処理	64 者
③ 処理拒否	35 者
④ 不明 (所在不明、連絡取れない等)	57 者
⑤ 取下げ (低濃度対象等が判明)	7 者

[処理拒否及び次年度以降処理の理由]

① 使用中	16 者
② 費用 (予算化) の問題	22 者
③ その他 (理由が明確でないものを含む)	61 者

(2) 平成 30 年度 of 取組み状況

1) 地域専任体制への完全移行

2 府 4 県毎の地域専任担当者により、保管者毎に登録及び契約締結の個別交渉を進めていきます。新規登録者は、登録完了次第、処理案内と手続きを随時行い、早期処理を推進します。

2) 自治体との連携強化

- ・自治体の立ち入り指導等で処理に応じた保管者には、速やかに処理手続きを行います。
- ・自治体の事業場立ち入り指導の際に、必要な場合は同行します。
- ・自治体に定期的な報告を行い、未処理保管者の情報を共有し、取組み方法を検討します。

- 3) 平成 28 年、29 年に続き、中部近畿産業保安監督部が企画した平成 30 年度電気使用安全月間説明会が 2 府 4 県の電気主任技術者等を対象に 7 月に各地区で開催されました。参加者は 11 会場で約 2,300 名で、JESCO への早期登録、早期処理の働きかけを行いました。

(3) 保管事業者説明会の開催

PCB 廃棄物の円滑な処理を進めるため、平成 30 年 3 月までは地域毎に説明会を行ってきました。(表-18)にその実施状況を示します。

平成 27 年度の和歌山県の説明会からは、総ざらい活動として、従来の説明会以降契約に至らなかった等の保管者を対象にして、自治体にも出席いただき説明会を開催しました。

平成 30 年度からは、状況に応じ説明会を開催するとともに、地域専任担当者が未処理保管者への個別対応処理手続き・契約の説明等を行い、早期処理を推進します。



開催状況

表－18 近畿2府4県(大阪市を除く)保管事業者説明会の実施状況

開催時期	対象地域	回数	出席事業者数	
1巡目	平成20年 7月 ～ 平成21年11月	2府4県	33	915
2巡目	平成21年11月 ～ 平成22年11月	2府3県	30	1,192
3巡目	平成23年 1月 ～ 平成23年11月	2府4県	27	605
4巡目	平成24年 1月 ～ 平成25年 1月	2府4県	22	542
5巡目	平成25年 1月 ～ 平成25年10月	2府3県	17	646
6巡目	平成26年 2月 ～ 平成27年 4月	2府4県	25	909
7巡目	平成27年 5月 ～ 平成28年 4月	1府2県	20	606
8巡目	平成28年 6月 ～ 平成29年 3月	2府3県	16	323
9巡目	平成29年 6月 ～ 平成30年 3月	2府1県	16	436

7. 処理手間物・困難物

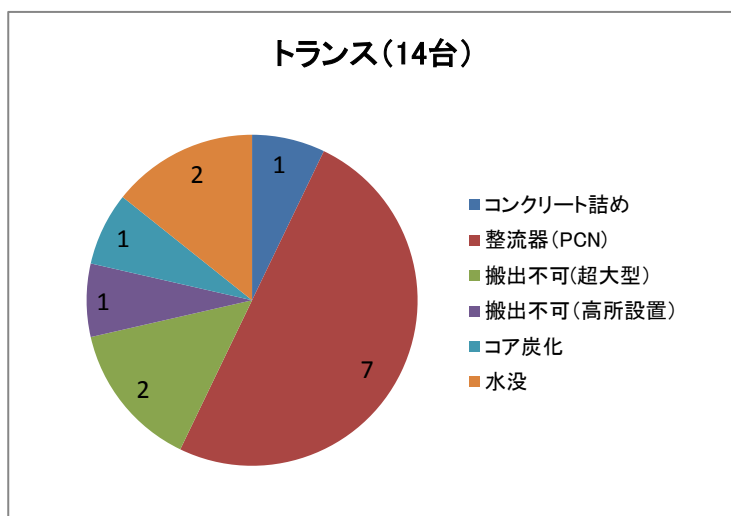
処理手間物・困難物とは、通常のPCB廃棄物の処理に比べて手間・時間を要するものであって、平成30年11月時点でトランス14台(全て平成30年度中に処理完了予定)、コンデンサ92台(内86台処理済み)、廃PCB油類155本(内38本処理済み)が存在しています。

これらのPCB廃棄物の種類、状況、処理方針、処理年度等については以下に示すとおりです。

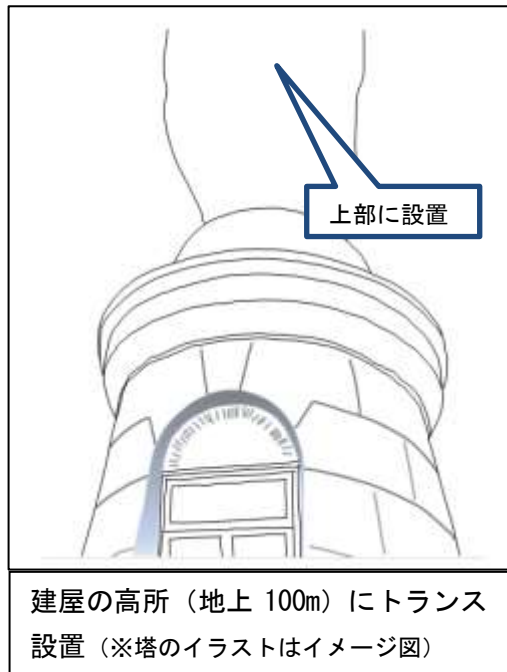
平成29年度においては、トランスのうち高所設置物(表－19)④については、10月から11月にかけて現地抜油・解体後処理施設に搬入し、平成30年1月に処理完了となりました。地下設置物(表－19)③についても1月から現地抜油を開始し6月に現地作業が完了し、当施設へは順次搬入され7月に処理完了となりました。

また、水没したトランス(表－19)⑥は写真のとおり、現在、現地解体を進めており、12月から搬入しております。同様に、コンクリート固化コンデンサ、廃PCB油についても計画のとおり処理を進めています。

1) 処理手間物のトランス



ビル地下6階の大型トランス



水没トランスの現地解体状況



大型トランスの全貌



大型トランスのフィン外し



コアの抜き出しのための切断



鉄箱入り（小型トランス）

表-19 処理手間物のトランス

	種類	台数	重量 kg	状況	処理方針	調査着手年度	処理予定年度
①	コンクリート詰め	1	9,840	トランスコアの下部がコンクリートで固められている	JESCOにてコンクリート除去	H25年度	H28年度済み
②	整流器(PCN)	2	6,200×2台	SK2使用	西棟にてTCB(トリクロロベンゼン)充填設備が完了。処理が可能	H23年度	H29年度済み
			2,850×1台			H23年度	H30年度処理中
		5	4,850×2台			H23年度	H30年度処理中
			4,600×2台			H23年度	H30年度処理中
③	搬出不可(超大型)	2	16,900	地下6階にあり、付属品を外してもエレベーターに積載できないため搬出不可	現場にて抜油後、気化循環抜油装置を使用後、解体	H24年度	H30年度済み
④	搬出不可(高所設置)	1	2,100	地上100mにあり、エレベーターに積載できないため搬出不可	現場にて抜油後、気化循環抜油装置を使用後、解体	H27年度	H29年度済み
⑤	コア炭化	1	7,700	短絡事故によりコアが炭化	現地にて抜油後、搬出	H25年度	H30年度済み
⑥	水没	2	994 2300	電気室水没品(大型容器有)	鉄箱、本体を切断後、本体を取り出し部品を取り外し	H27年度	H30年度処理中
	合計	14					

■ 処理中又は完了

2) 処理手間物のコンデンサ

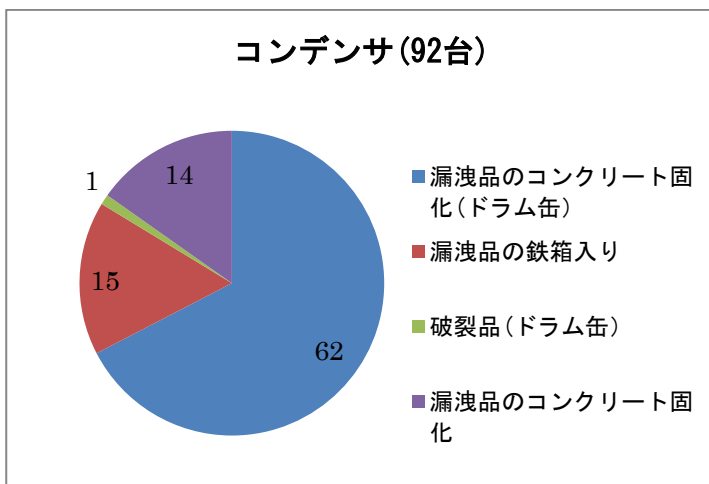


表-20 コンデンサの状況と処理方針

	種類	台数	重量kg/台	状況	処理方針	調査着手年度	処理済・または予定年度
①	漏洩品のコンクリート固化(ドラム缶)	62	10	破損品・漏洩品をコンクリート詰めし、ドラム缶に封入	保管者にてコンクリート除去、搬入後、ドラム缶ごとVTR処理	H26年度	H28年度済み
②	漏洩品の鉄箱入り	15	50	保管庫の入口を溶接し、保管鉄箱の蓋も溶接	保管者にて鉄扉、溶接箱の開封、漏洩品を補修(碍子部)後、VTR処理	H26年度	H28年度済み
③	破裂品(ドラム缶)	1	38	破裂コンデンサと汚染物の混入	保管者にて分別後、VTR処理	H26年度	H28年度済み
④	漏洩品のコンクリート固化	8	100~140	コンデンサの周囲に型枠を作り、コンクリートを流し込み固化(写真)	保管者にてコンクリート除去、搬入後、VTR処理	H27年度	H29年度済み
		6		コンデンサの底部分をコンクリートで固化、もしくはドラム缶に入れコンクリート固化	保管者にてコンクリート除去、搬入後、VTR処理	H26年度	H30~31年度処理予定
	合計	92					

■ 処理完了

3) 処理手間物の廃PCB油類

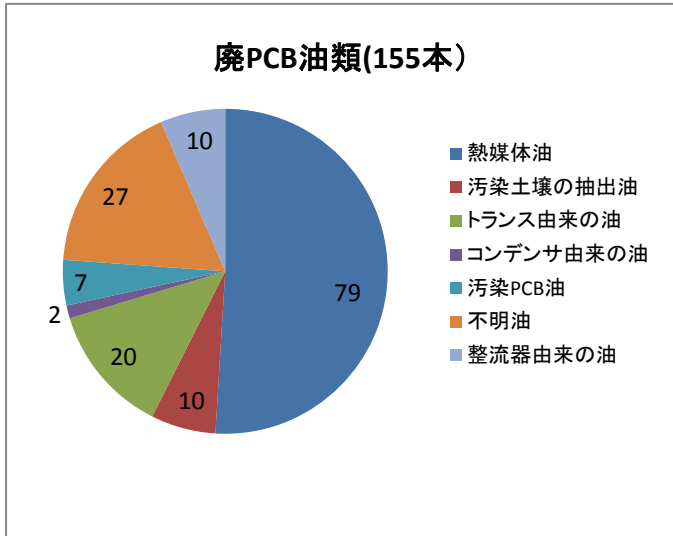


表-21 廃 PCB 油の状況と処理方針

種類	全本数	本数	重量 kg/本(合計)	状況	処理方針	調査着手年度	処理済・または予定年度
① 熱媒体油	79	1	140(140)	若干の灯油混入	ペール缶に小分け後、VTRIに、少量ずつ投入し処理	H24年度	H28年度済み
		14	180(2,520)	分析後、多くの低引火点成分を含有	VTR処理	H25年度	H30年度済み
		37	180(6,660)	分析後、多くの低引火点成分を含有	VTR処理又は移動式抜油装置にて処理	H25年度	H31年度予定
		10	294(2,936)	熱媒体油に軽油が混入	分析後、処理方法を検討中	H30年度	H31年度予定
		3	123(370)	熱媒体油に洗浄液、シリコンが混入	分析後、処理方法を検討中	H30年度	H31年度予定
		14	180(2,520)	熱媒体油(調査中)	詳細が明らかになれば、処理方針	H30年度	H31年度予定
② 汚染土壌の抽出油	10	7	160(1,120)	鉱物油・少量のトルエン混入	トルエン少量のため、コンデンサのVTR処理時に、ドラム缶1~2本を併せ処理	H24年度	H28年度済み
		3	150(150)	鉱物油・少量のトルエン混入	分析後、移動式抜油装置にて処理	H24年度	H31年度予定
③ トランス由来の油	20	7	180(1,260)	多量の水分を含む	保管事業者で水分除去	H27年度	H29年度済み
		13	50(650)	ヘドロ状態	保管事業者で水分除去	H25年度	H30年度予定
④ コンデンサ由来の油	2	1	145(145)	鉱物油が混入	VTRIに、少量ずつ投入し処理	H26年度	H28年度済み
		1	237(237)	溶剤を含む	分析後、移動式抜油装置にて処理	H26年度	H31年度予定
⑤ 汚染PCB油	7	7	180(4,500)	フィルター-漏れ油に貯水槽が混入	分析後、処理方法を検討中	H26年度	H30~31年度予定
⑥ 不明油	27	2	18(37)	履歴が分からずヘドロ状態	VTR処理	H28年度	H29年度済み
		4	160(640)	油の履歴がトランス油と判明	分析後、トランス油と判明	H28年度	H30年度済み
		21	160(3,360)	油の履歴や内容物が不明、泥状	分析後、移動式抜油装置にて処理	H27年度	H31年度予定
⑦ 整流器由来の油	10	2	180(360)	PCN(SK2)入り	JESCOの廃PCB油TCB(トリクロロベンゼン)充填装置にて処理	H27年度	H30年度済み
		8	18(146)	分析後、SK2と判明		H29年度	H30年度予定
合計	155	155	2,735(27,751)				

■ 処理完了

■ 新規

8. トラブル報告等

大阪府北部地震(6月18日発生)における対応について

大阪PCB処理事業所としては、操業以来初めて大きな地震を経験しました。当事業所の地震対策として、施設内に地震感知器を設置しており、120ガル（地震の揺れの速度の変化を表す単位（加速度））以上の揺れを感じた場合には施設を安全に自動停止させることになっています。当日の地震規模はマグニチュード：6.1、震源の深さ：13km、感知器は139.9ガルを感知し、処理に関するすべての設備が停止しました。

地震発生後、緊急時対応マニュアルに基づき、職員は中央制御室等の監視要員を除き西棟駐車場に避難、JESCOの対策本部及び運転会社の指揮本部を立上げ防災活動等の実施、安全上問題ないことを確認したうえで操業を再開することとしました。

幸い職員等にけがはなく設備上の被害もありませんでしたが、引き続き緊急時に備えた教育・訓練を実施し緊急時の体制の強化を進めてまいります。なお、此花区住民の方々には、7月26日の此花区連合振興町会長会議にて状況報告を行いました。

○地震発生に対する対応状況

- ① 午前7時58分：大阪府北部地震発生
- ② 同時に施設の自動停止
- ③ 午前8時12分：津波なしの確認後、監視要員以外避難指示
- ④ 午前8時17分：本社に地震発生の一報
- ⑤ 午前8時18分：
 - ・JESCO対策本部、運転会社（ecoo）指揮本部の立ち上げ
 - ・JESCO及びecoo職員並びに関連会社従事者の安全確認の実施
 - ・施設内の状況確認
 - ・トランス・コンデンサなどの搬入中止
- ⑥ 午前8時35分：揺れが継続していないことを確認し避難の解除
- ⑦ 午前8時43分：大阪市、消防署、本社（第二報）に報告。以後、此花区役所を含め適宜報告を実施。
- ⑧ 午前9時05分：用役関係（冷却水、計装空気・窒素）の順次復旧開始（約2時間）
- ⑨ 午前11時42分：施設内の設備状況・用役関係の稼働確認完了、運転順次再開
対策本部・指揮本部を解散
- ⑩ 午後3時：VTR運転再開



避難状況



地震感知器（感震装置）

9. その他説明事項

(1) 視察・見学状況

平成18年10月に見学受入を開始して以来、平成30年11月末現在で延べ1,442団体、11,222人の方が情報公開設備を視察・見学されました。視察・見学者の内訳は、地元市民をはじめ企業関係（PCB廃棄物保管事業者を含む）、行政関係、環境関係団体等の方々です。

表-22 視察・見学者数

(人)

年月	総数	企業関係	環境関係 団体等	一般関係	行政関係	学校・研修	自由見学	海外
平成18年度	2,129	793	790	113	282	62	55	34
平成19年度	3,333	1,511	1,018	527	148	44	40	45
平成20年度	1,100	316	430	13	168	52	91	30
平成21年度	650	237	183	19	79	64	51	17
平成22年度	624	152	212	34	87	101	26	12
平成23年度	482	231	51	2	128	23	36	11
平成24年度	501	176	149	1	75	60	31	9
平成25年度	465	189	80	1	175	6	14	0
平成26年度	518	158	141	21	111	81	0	6
平成27年度	280	100	77	1	60	34	1	7
平成28年度	412	85	191	3	76	34	0	23
平成29年度	474	91	257	0	39	57	7	23
平成30年4月～11月	254	23	85	28	92	10	1	15
合計	11,222	4,062	3,664	763	1,520	628	353	232

「環境関係団体等」：環境関係団体や議会等の各種団体

(2) 緊急時対応訓練実施状況

平成 29 年度は「休日・夜間における火災発生」を、平成 30 年度は「漏洩発生」をテーマとして、グループごとに個別事象を設定して取り組んでいます。今後も毎月 1 回の訓練を計画しています。

平成 30 年 5 月には此花消防署の立会いのもと、消防総合訓練を行い消防署の方から講評を戴きました。全体の訓練は、10 月の震災訓練、11 月の消防訓練を行いました。

表-23 緊急時対応訓練実績

月 日	訓練項目
平成30年 2月 1日	緊急時対応訓練 (火災/液処理グループ)
2月23日	同上 (火災/中制グループ)
3月29日	同上 (火災/中制グループ)
4月23日	同上 (消防総合訓練予行)
5月30日	消防総合訓練(通報・消火・避難・救助訓練) 此花消防署立会、指導
6月27日	緊急時対応訓練 (漏洩/VTRグループ)
7月26日	同上 (漏洩/中制グループ)
8月16日	同上 (漏洩/検査解体グループ)
10月 4日	同上 (漏洩/保全グループ)
10月25日	震災訓練 (通報・避難訓練)
11月15日	消防訓練 (担架組立搬送・放水・テント組立・消火訓練)

消防総合訓練 (平成 30 年 5 月 30 日)

対策本部



指揮本部



消防訓練 (平成 30 年 11 月 15 日)

担架での搬送訓練



消火器操作訓練



(3)安全教育実施状況

無事故無災害でPCB処理を進めるため、所員の安全意識、知識の向上を図ることを目的に毎月(表-24)のと通りの安全教育を実施しています。

テーマについては、消防計画、心肺蘇生&AEDの実地訓練、環境マネジメント教育、個人情報の保護等、幅広くテーマを設けて実施しています。個人情報の保護については大阪市から外部講師を招へいしての教育を実施しました。

表-24 安全教育実績

月日	教育項目
平成30年 1月18日	消防計画と防災対策
2月21日	心肺蘇生&AED
3月22日	コンプライアンスについて
4月19日	環境マネジメント教育
5月17日	熱中症対策
6月21日	個人情報の保護について (外部講師:大阪市市民局)
7月19日	H30年度 夏期定期点検工事説明
8月23日	ハラスメントについて (外部講師:大阪法務局)
9月19日	防消火設備について
10月18日	ニュー5S (外部講師:労働安全衛生コンサルタント)
11月22日	大阪事業所の電気設備について

心肺蘇生&AED (平成30年2月21日)



熱中症対策 (平成30年5月17日)



個人情報の保護について (平成30年6月21日)

